

一般社団法人

日本美術教育学会 会報

2025年1月31日 第156号

事務局 新関伸也

東海大学

児童教育学部

e-mail: honbu@aesj.org

編集部 藤田雅也

静岡県立大学

短期大学部

〒422-8021

静岡市駿河区小鹿 2-2-1

e-mail: fujita@u-shizuoka-

ken.ac.jp

tel&fax: 054-202-2687

(研究室)

編集部 (会報) 水谷誠孝

名古屋学芸大学

ヒューマンケア学部

〒470-0196

日進市岩崎町竹ノ山 57

e-mail: n-mizu@nuas.ac.jp

tel: 0561-75-2892

(研究室)



第74回 学術研究大会大阪大会会場 (四條畷学園短期大学)

- ・ 第74回学術研究大会大阪大会に向けて 香月欣浩
- ・ 実践報告「障がいのある人も、ない人も、一緒に楽しむ造形活動を目指して」 福井一尊
- ・ 研究報告「美術科のたちいち」 山岡佳代
- ・ 美術教育雑感「AIと美術教育」 新関伸也
- ・ 第2回理事会報告・第3回理事会報告
- ・ 第2回委員総会報告・第3回委員総会報告
- ・ 一般社団法人日本美術教育学会 理事・監事・委員 (第9期～第10期 法人役員
任期: 2025年4月～2027年3月、委員任期: 2024年4月～2027年3月)

第 74 回学術研究大会 大阪大会に向けて

香月 欣浩 KATSUKI, Yoshihiro

大阪大会実行委員長 四條畷学園短期大学教授

大阪大会実行委員会

現在、大阪に支部はありません。そんな中、大阪で日本美術教育学会をやりましょう！とお声掛けをいただき、私 1 人では何もできない中、多くの皆様にご指導とご協力をいただき、今年大阪大会を開催させていただくことになりました。支部活動も行っていない私たちに学会の運営をお任せいただいた細谷代表理事はじめ、執行部の皆様の懐の深さに心から感謝致しております。やるからには、多くの方々にお越しいいただき、「楽しかった！新しかった！でも大阪暑かった！」と笑って満足していただけるように実行委員のメンバーと準備を進めております。

大阪大会のテーマ

大会実行委員の話は続きます。大阪大会をお引き受けした時、私たちは正直不安でした。しかし先ほど書かせていただいたように、役員会の皆様が経験の浅い私たちに「大阪大会 GO！」と承認してくださったのです。その時、私は自分を感じました。自分たちを認めてもらえたことで安心と喜びを感じ、同時に根拠のないやる気まで出てきました。実行委員のメンバーも一緒の気持ちだったと思います。そして学校の子どもたちと自分たちを重ねて考えていました。

私たちは関係性の中で「自分」をつくっていきます。関係性の中でしか「自分という主体」を感じることはできないと言えます。つまり相手が自分を受け止めてくれて初めて、自分の主体性を感じることができます。自分だけでは主体になり得ない。そして今度は自分が相手を受け止めることで相手は主体性を感じることができます。それは子どもも大人も同じです。大阪大会のテーマは「美術教育という生き方～子どもと共に作る世界～」。上からでも下からでもない、中から目線で子どもとの関わりを皆様と一緒に考えていければと思っています。

1.大阪大会の概要

開催日：2025 年 8 月 22 日（金）、23 日（土）

会場：四條畷学園短期大学 清風学舎（大阪府大東市学園町 6-45）

大会テーマ：美術教育という生き方～子どもと共に作る世界～

2.記念講演について

「美術教師として人間を理解すること（仮）」

講師：浜田 寿美男（はまだ すみお）氏（奈良女子大学名誉教授）

浜田 寿美男 氏は 1947 年香川県小豆島生まれ。京都大学大学院文学研究科（心理学）博士課程単位取得後退学され、花園大学助教授、教授、奈良女子大学 2010 年定年退任後、現在、奈良女子大学名誉教授、立命館大学上席研究員などを歴任されています。専門は発達心理学、供述心理学。発達心理学の分野で著作、翻訳書が多数あり、心理学者として、袴田事件のほか子どもが冤罪事件で証人としてかかわったケース（甲山事件など）をきっかけに冤罪事件に数多く関与されており、法心理学関連の著述もあります。また『証言台の子どもたち—「甲山事件」園児供述の構造』（日本評論社、1986 年）、『狭山事件虚偽自白』（日本評論社、1988 年、のち北大路書房）、『個立の風景—子どもたちの発達のゆくえ』（ミネルヴァ書房、1993 年）、『ピアジェとワロン—個的発想と類的発想』（ミネルヴァ書房、1994 年）、『意味から言葉へ』（ミネルヴァ 書房、1995 年）、『「私」とは何か—ことばと身体との出会い—』（講談社選書メチエ、1999 年）、『子ども学序説』（岩波書店、2009 年）などの著書が多数あります。

浜田氏は、長年にわたり子どもの発達と教育について深い研究を続けてこられ、その専門知識や知見を多く著書を通して私たちに届けてくださっています。

本講演では、「子どもと私たち大人」「美術を通して人間を理解すること」「子どもと共につくる世界」に触れお話しいただこうかと考えております。浜田氏の豊富な知識と経験に基づく講演は、子どもの成長に関わるすべての方にとって貴重な学びの機会となることでしょう。

3.講演について

「凸凹の凸を伸ばしていく（仮）」

講師：平林 景（ひらばやし けい）氏（一般社団法人日本福祉医療ファッション協会代表理事）

平林 景 氏は 2025 年の大阪・関西万博において「O-MU-TSU WORLD EXPO（英名：World Diaper EXPO）」を開催されます。本イベントは、おむつをテーマにしたトークショーとファッションショーを主体に、人種、体形、年齢、信仰、身体状況など様々なバックグラウンドを持つ方が参加でき、楽しみながらおむつを身近なものとして捉えられるイベントです。ぜひチェックしてください。

これまでいくつもの不可能を可能にしてきた平林氏の「自分がやりたいという気持ち、ワクワクする気持ちを 1 番大事にして、誰でも何でもできるということを伝えたい。そこに能力とかそんなの必要はない」という熱い講演は、明るい話題の少ない保育・教育界に生きる私たちにきつと勇気を与えてくださるでしょう。

【大阪・関西万博 平林氏イベント開催概要】

O-MU-TSU WORLD EXPO

開催日時：2025 年 6 月 24 日（火）

開催場所：大阪・関西万博 EXPO ホール

参加者数：1900 人 公式 HP：<https://wel-fashion.jp/>



4.ラウンドテーブル

ラウンドテーブルでは話題提供の方のお話を聴くだけでなく、会場の皆様同士で語りを重ねていただきます。語りから他者の感じ方、考え方に触れることで、自らの気づきと変容を促す時間です。できるだけ話をしたことのない方とグループを編成し、新しい価値に触れ、私たちの思考の可能性を広げ、「個人知」から「協働知」につくり変えていく試みです。皆様が元気になるようなプログラムになればと期待しています。話題提供者は特定非営利活動法人コーナス（Art-Labox）代表理事 白岩高子 氏、学校法人 今川学園 木の実幼稚園教諭を予定しています。

5.大阪大会会場、宿泊予約注意について

2025 年、いよいよ日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催されます。そして同じ年の夏、日本美術教育学会 第 74 回学術研究大会 大阪大会が開催されます。本学会はこれまで大学やイベント施設での開催が中心でしたが、今年は四條畷学園短期大学（「しじょうなわて」と読みます。愛称は「なわたん」）での開催となります。小さな短期大学ではありますが、小さいからこそ学舎内の移動も簡単です。どなたも迷子にならないと確信しております。また最寄り駅の JR 四條畷駅（学校名の漢字と違うのがややこしい）から徒歩 40 秒ですので、地図に弱い方も安心してお越しいただけます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

<お願い> 大阪・関西万博開催時期と重なる為、宿泊施設の早期予約をお勧めいたします！！

実践報告 「障がいのある人も、ない人も、 一緒に楽しむ造形活動を目指して」

福井 一尊 FUKUI, Kazutaka

島根県立大学人間文化学部 教授

1. はじめに

2016 年に障害者差別解消法が施行されて月日が経ち、近頃は日常のあらゆる場面で障がい者¹⁾が活躍の様子を見聞きする。また、ここ数年の間に「インクルーシブ教育」という言葉も社会に浸透し、2024 年は全国の学校で様々な実践の報告がなされてきた。島根県において障がい者の芸術活動を推進してきた筆者にとって、とても参考になる取り組みが全国的に展開されたことは、とても嬉しい一年であったといえる。方や、地域や学校によって、インクルーシブ教育の充実度に差が生じていることも事実である。また、教師の負担増や研修の必要性などの課題についてもブラッシュアップが進められた一年であった。そのように学校教育の中で共生教育が着実に推進される一方で、学校の外に目を向けると、まだまだ「支援する側、される側」という固定した意識から抜け出しているとはいえない状況であろう。

本稿では、2024 年に筆者がゼミ学生と共に行った、障害のある人も、ない人も、一緒に楽しむ造形活動を目指したワークショップ 2 件を報告し、その成果と課題について紹介したい。

2. 造形ワークショップ① 「目かくしペインター」2024.06.30

一つ目に紹介するのは、目が見える人と見えない人が視覚を用いることなく一緒に造形表現を楽しむ機会の創出である。見える人がアイマスクを着用して何かをしようとすると、一瞬戸惑うが、すぐに視覚以外の感覚が目覚めることを感じられる。今回は、目隠しをして絵を描くことと、色画用紙を破ってその長さを競う活動を行った。会場は、島根県眼科医会が主催した「こどもの目の日²⁾」イベントであり、視覚障がいのある大人も子供も多く参加したスペースである。本ワークショップの目的は、視覚以外の感覚で絵を描いたり、コミュニケーションを取ったりして、造形表現の本質に出会う事と、その楽しさに気付くこととした。

絵を描く活動（図 1）では、手触りや音を頼りに線や形を生み出す面白さや、「上手な絵」や「他者の視線」から解放された時間を共に作り出す心地よさに気付く様子が確認できた。視覚を閉じることで生まれる自由に出会えた瞬間であったともいえよう。鑑賞の段階では、見える人は仕上がった作品を見て楽しむ活動になったのに対して、見えない人はその様子を他者から聞いて楽しむ活動になり、両者の間に壁を生じさせてしまったことが課題として残った。できあがった描画作品は、額に入れて持ち帰り、家に飾ってもらうこととした。この日感じた楽しさや不思議さをいつまでも生活の中で振り返ってもらう事で共生意識を醸成することを目指したのである。

色画用紙を破って長さを競う活動（図 2）では、大胆な身体性を伴う活動であることから制作の楽しさは絶大である。制限時間を 3 分に限定することで競争原理も働き、参加した子供も大人も触覚を研ぎ澄ませ、頭の中に描く形を指先の感触で追い求める姿が見られた。見える人も見えない人も同じ条件で競争することで、自然と言葉の交流が生まれ、見えない人の卓越した認知能力に気付くことができた。この活動では、長さを比べる振り返りや、鑑賞活動も視覚を用いることなく行うことができたため、障がいの有無に関係なく楽しめたといえる。



図1 「目かくしペインター」① アイマスクをして絵を描く活動



図2 「目かくしペインター」② 画用紙を破って長さを競う活動

3. 造形ワークショップ②「手作りお面で、舞台鑑賞を楽しもう」2024.10.27

障がい者の表現活動が様々な形で広がりを見せる今日、芸術を鑑賞できる機会も増加傾向にある。島根県内でもバリアフリー舞台公演や、美術館での鑑賞サポートもすでに始まっている。ただ、それらは健常者をメインの鑑賞者として想定したものを障がい者にも鑑賞しやすくする取り組みであり、両者が一緒にその鑑賞空間を楽しむことが前提とされていないものがほとんどである。そこで、どんな障がいのある人もない人も、大人も子供も楽しめる舞台公演を企画から目指し、筆者も実行委員となって開催したのである。「にぎやかな日々³⁾」と題した本イベントでは、舞台公演の途中で声を出したり、立ち歩いたりしても良いことにした。そしてすべての舞台上の様子は音声にも、手話にも同時通訳して鑑賞者に伝え、鑑賞者全員がその空間を楽しめるものとした。その一体感をより高められるよう、筆者がお面作成のワークショップを行い、そこで作ったお面を着用して舞台鑑賞を行ったのである（図3）。

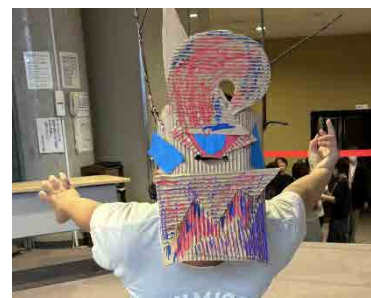


図3 思い思いのお面を制作し、それを着用して舞台を鑑賞します。

お面の材料は段ボール素材を土台として、それに木の枝や実、葉などを接着したり、着彩したりして制作した。障がいの種類や程度、そして年齢に合わせた活動が楽しめるよう、様々な大きさの素材を準備して、ゼミ学生が制作サポートにあたった。健常者がつい抱く「上手くつこう」、「褒めてもらいたい」という気持ちから解放された障がい者の表現に健常者も触発され、自由な造形表現に没頭する様子が見られた。そして、それぞれが思うがままに作り上げたお面を着用して鑑賞する舞台は、何とワクワクしたことであろうか。そしてそれを障がいの有無や年齢の違いを超えて共有できる公演会場は、だれもが心から芸術を楽しめる空間になっていた（図4）。この取り組みによって障がい者が思う存分舞台芸術を楽しむ時間を創出できたこととともに、健常者にも障がい者と過ごす時間の有意義さや芸術鑑賞の新たな楽しみ方を提起できたと考えている。



図4 「にぎやかな日々」島根県民会館大ホール。舞台公演の一場面。

4. 課題とこれから

これらの取り組みを続ける中で見えてきた課題について、ここでは2点を紹介したい。一つ目はこれらの取り組みが行える地域と、そうでない地域の地域間格差が生じていることである。都会部や大きな芸術施設がある地域では多様な取り組みが提供できることを示してきたが、それ以外の地域での実践は様々な理由で実施できていない。このような文化的な地域間格差は、予算がいくら確保できても解消できない課題である。そこで考えられるのが、学校単位の取り組みではないだろうか。学校向けの芸術家派遣アウトリーチ活動も展開されているが、数としてはまだまだ不足している。またその目的が在校生のみを対象とした芸術鑑賞に留まっている状況といえる。開かれた学校を目指し、地域の大人にも障がい者にとっても文化的な拠点としての役割を学校が果たせれば、少人数で学ぶ地方の学校において、人的交流による教育の充実が期待できるように感じられる。ひいては、障がいや多様性の理解を小さな学校に通う子供たちにも、実感を伴って伝えることにつながるのではないだろうか。

二つ目は、地方における支援者の育成が十分できていないことである。これまでの取り組みで、舞台上の動きの手話通訳者や同時言語通訳者の力を借りて行事を実施してきた。しかし、島根県内にはそれらを担える技術を有する人材がとても少なく、近隣県から招聘することも少なくない。インクルーシブな社会生活を今後さらに充実させるためには、そういった「つなぐスキル」の育成が、各地域で急務であるといえよう。

さて、我々人間は4万年も前から絵を描き、周囲との協調を大切にしながら進化を遂げてきたことから、創造と共感を楽しむことはとても自然な営みだといえる。そう考えると、他者理解やダイバーシティの意識がより大切になる成熟社会において、生み出すことと分かり合うことの心地よさを伴いながら進む美術教育の果たす役割は決して小さくないのではないだろうか。

註 1) 島根県では障害を抱える人を、「障がい者」と表記することとしている。

2) 2023年、日本眼科医会は6月10日を「こどもの目の日」に制定した。

3) 「にぎやかな日々」は、しまね文化振興財団が中心となり島根県内で2021年から毎年開催している。

研究報告 「美術科のたちいち」

山岡 佳代 YAMAOKA, Kayo

芝浦工業大学 附属中学高等学校 教諭

1. 探究と STEAM

デザイン思考、アート思考というコトバが美術の領域を超え、各界のトップ層の心を掴み、早数年が経つ。今は MBA と MFA。4年前このコトバを目にした時には驚きと共にどこか不思議な感じがした。それは分野を超えて総合的な学習の時間や総合的な探究の時間、STEAM 教育として私たち美術教員に届いた。恐らく他教科の先生方は探究や STEAM の研究を進めた時に、慣れなさやとまどいを感じただろう。働き方改革進行中の日本では、時には現場の方々にとっても重たい責務として映ったかもしれない。しかし、私たちはどうであろうか。探究で必須であるカリキュラム作り、STEAM で行われる他教科のヒアリングやコラボレーションは、美術科としては元よりあたりまえであった。美術科指導要領を読まれた他教科の先生から「何してもいいの?」「こんな指導要領あるんだ」と感想を頂くのと同じように、探究や STEAM を私たちは既視感を持って取り組むことができる。0-1 を生み出すアート思考、1-10 を成し遂げるデザイン思考、どちらも美術に関わる方々は 10 代の頃から表現者として向き合ってきた。更に、課題解決能力が必須とされている教育現場において、問題定義だけでもよい、何なら何にもならなくてもよいという根底から覆すどっしりとしたいでたちでアートは存在している。ビジネスモデルについて生徒から相談を受けたり、アントレプレナーシップ教育に関わったりしている時にふとアート作品と対峙すると、大きな存在感を持って真理を突きつけてくれる。探究や STEAM に関わる機会が増える中で、そんな基礎でもあり達観したものでもあるアートの深い魅力を今改めて強く感じる。

2. 非認知能力

美術教育を経て私達が児童生徒に身につけさせたいものは非認知能力ではないか。総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、STEAM 教育でも同じように非認知能力の向上が求められているように感じる。強く感じたきっかけは AI である。AI の台頭で私たちには、知識や正しさだけではなく次に繋げていく力が求められている。何かを体験して、嬉しかったり悔しかったりと感情を揺さぶられて、だからもう一度したい。又は、もうしたくない。という気持ちを、AI が持つ可能性は低いだろう。そんな理由から、現在担当している学年 160 名の心理的資本を、中学 3 年次から高校 2 年次の 3 年間に渡り、計 4 回アンケート形式で取り分析した。心理的資本は、一般社団法人日本社会イノベーションセンター(JSIC)代表理事 i.school エグゼクティブ・ディレクター東京大学名誉教授の堀井秀之先生により作成されたアンケートを用いた。アンケートの内容や活動、これまでの分析についての詳細は、本学会の 2023 年度と 2024 年度の年次大会で発表し、学会誌に掲載させていただいている。今後はこの取り組みでの分析結果を美術教育へと反映させ、様々な教育分野での非認知能力の向上を目指す。

3. 分析

本稿では、リピックス・ラボラトリーズ社が開発したデータ分析ツール Etool を用いて得た見解を紹介する。先述のアンケートを心理的資本を構成しているのは 4 つの因子で分析した。4 つの因子は、それぞれの頭文字をとり「HERO」と表現される。今回は Luthans らの HERO モデル (表 1) に照らして心理的資本の項目を独自で分類し、それぞれの因子の相関を見た。

表 1 心理的資本 (Psychological Capital: PsyCap) 質問票構成 (HERO モデル : Luthans 5)

A. 希望 (Hope)	目標に向かう意欲や道筋を探す能力
B. 効力感 (Self-Efficacy)	自分の能力を信じて課題に取り組む
C. レジリエンス (Resilience)	困難や逆境から立ち直る力
D. 楽観性 (Optimism)	将来の成功や良い結果を信じる態度

まず、2021年度中学3年次に調査した文化祭における心理的資本と、2024年度高校2年次の総合的な探究の時間の2年に渡るカリキュラムを終えたタイミングでの心理的資本の2種類について、4つの因子それぞれの箱ひげ図を比較した。すると**図1**の効力感と**図2**のレジリエンスにおいて向上が認められた。

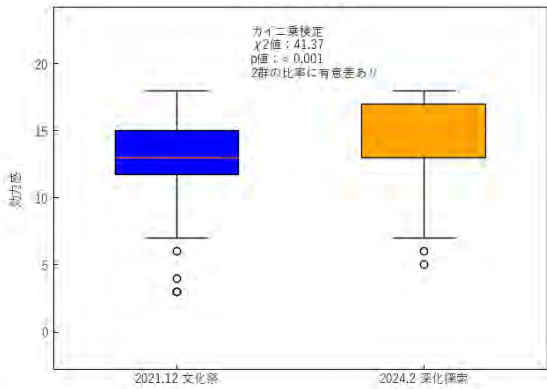


図1 効力感の箱ひげ図

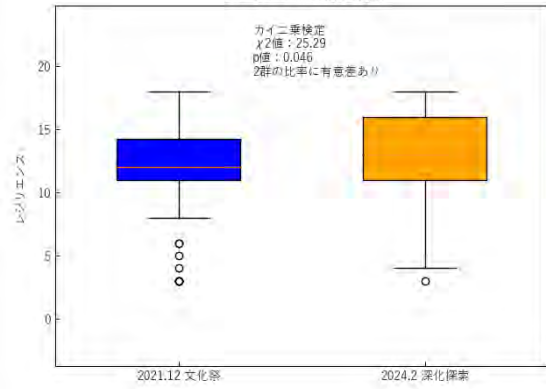


図2 レジリエンスの箱ひげ図

更に、2021年度の文化祭についてそれぞれの因子同士の相関を調べた。効力感とレジリエンスについては**図3**のような2次元ヒストグラムの相関があった。他の因子同士の相関よりも強い関係性があった。そのため、**図4**と**図5**のように効力感とレジリエンスの相関について2021年の文化祭と2024年の総合的な探究の時間カリキュラム終了時とで3次元棒グラフを見比べると、明らかに中間から右上に層が移動していることが分かった。以上より、総合的な探究の時間の活動は、特に効力感とレジリエンスについて効果的であることが分かった。今後はカリキュラムの内容と、個人の活動や心理的資本の推移について分析し、より効果的な体験を模索する。そして、美術科のカリキュラムを活用した探究のカリキュラムを、再び美術科にパワーアップして還元することを図る。

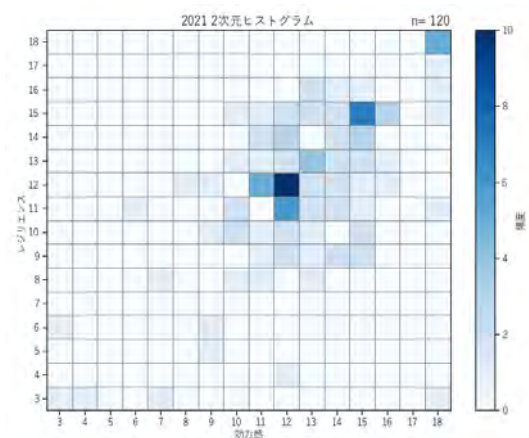


図3 効力感とレジリエンスの2次元ヒストグラム

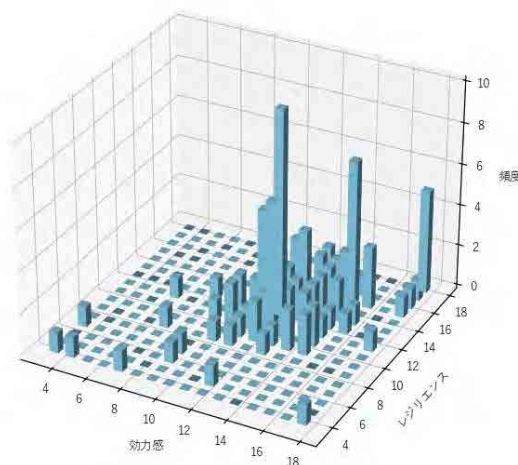


図4 効力感とレジリエンスの3次元棒グラフ (2021年)

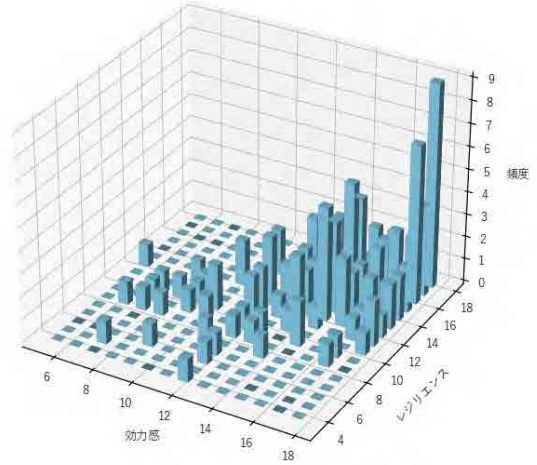


図5 効力感とレジリエンスの3次元棒グラフ (2024年)

美術教育雑感 「AI と美術教育」

新関伸也 Niizeki,shinya

東海大学児童教育学部 教授

以下の文章は、AI「Chat GPT」(2025.1.10 閲覧)に質問を入力して、出できた回答をそのまま、構成して掲載したものです。本文は変更していません。AIと美術教育を考える一助にしてください。

■ AI と美術教育の関係および果たすべき役割とは

人工知能（AI）の進化は、美術教育に新しい可能性をもたらす一方で、課題も提起されています。AI は、従来の教育手法を補完し、学びのあり方を拡張するツールとして機能する一方で、美術における創造性や人間性をどのように守り育てるかという視点も重要です。

AI が美術教育に果たす役割としては、

1. 創造的支援ツール

美術制作における多様な表現技法を支援するツールとして役立ちます。たとえば、AI が提供する以下のような機能により、生徒の創造性が広がる可能性があります

・**画像生成**: AI による画像生成ツール（例：DALL-E や MidJourney）を使用することで、生徒は自らのアイデアを視覚化する新たな方法を得られます。

・**デザイン支援**: 色彩や構図の提案、パターン生成など、AI のアルゴリズムが制作プロセスをサポートし、生徒のデザイン力を引き出します。

・**3D モデリング**: AI が補助する 3D モデリングツールは、デジタルスカルプティングや建築デザインに興味を持つ生徒にとって有用です。

AI は単なるツールではなく、「共創のパートナー」として位置づけることで、美術教育における新たな表現の可能性を開拓する役割を果たします。

2. 個別化学習の実現

AI は、美術教育における個別化学習の促進にも寄与します。たとえば、以下の方法で生徒一人ひとりの特性やニーズに応じた指導が可能です：

・**スキル評価とフィードバック**: AI を活用した学習プラットフォームは、生徒のスキルや制作物を分析し、改善点を具体的にフィードバックします。これにより、生徒は自分の弱点を理解しやすくなります。

・**パーソナライズされた教材の提供**: AI は、生徒の興味やスキルレベルに基づいて適切な教材や課題を提案することができます。このような個別化学習は、すべての生徒が自分のペースで成長できる環境を提供するために重要です。

3. アートの歴史・分析教育への応用

AI は、過去の美術作品の分析やアートの歴史教育にも革新をもたらします。

・**作品のスタイル分析**: AI は、美術作品のスタイルや技法を自動的に分類し、生徒が過去の巨匠たちの作品を深く理解する手助けをします。

・**美術史データの可視化**: 時代ごとのアートの進化や文化的影響を視覚的に示すツールとして AI が活用できます。これにより、美術史の学びがより直感的でインタラクティブなものとなります。

4. 美術教育のアクセシビリティ向上

AIを活用したオンラインプラットフォームやツールは、地域や経済的な制約にかかわらず、美術教育をより多くの人々に提供する手段となります。

・**遠隔教育の支援**: リモート環境での美術教育において、AIはリアルタイムでの制作サポートやオンライン講座の提供を支援します。

・**言語や文化の壁を越える**: AIによる翻訳技術や多文化対応の教材開発により、異なる文化的背景を持つ生徒たちが、共通のプラットフォームで美術教育を受けることができます。

■ AIがもたらす課題

1. 創造性の画一化

AIが生成した作品や提案に依存しすぎると、生徒の独自性や創造性が損なわれるリスクがあります。特に、AIが「最適解」を提案しがちな場合、それに沿った制作が奨励されることで、自由な表現が制限される可能性があります。

2. 人間性とのバランス

美術は、感情や文化的背景、人間の独特の価値観を表現するものです。AI主導の学びが強調されると、人間の内面的な感性や体験に基づく表現が軽視される危険性があります。

3. 倫理的問題

AIによる著作権侵害やデータの利用に関する問題も、美術教育でのAI活用において注意が必要です。たとえば、AIがトレーニングデータとして使用する作品の権利が十分に守られているかが問われます。

■ 今後の方向性

1. AIと人間の共創を重視する教育

AIを単なる補助的なツールとして扱うのではなく、人間の創造性を拡張する「共創のパートナー」として位置づけることが重要です。生徒がAIを活用しながらも、自らの感性や価値観を表現するバランスを取る指導が求められます。

2. AI活用教育のカリキュラム整備

美術教育におけるAI活用を体系的に学ぶカリキュラムの整備が必要です。これには、AIを使用した表現手法の学びに加え、AIの仕組みや倫理的課題についての教育も含まれるべきです。

3. 教員の専門性向上

AIを活用した指導方法を教員が習得できるよう、専門的な研修やリソース提供を拡充する必要があります。AIを効果的に教育に組み込むためには、教員自身がその可能性と限界を理解していることが不可欠です。

4. アクセシビリティの公平性確保

AI活用型美術教育をすべての生徒が享受できるよう、デジタルデバイドの解消や機器の整備に向けた取り組みを強化することが求められます。

結論

AIは、美術教育における表現の幅を広げ、個別化学習を実現し、学びの場を拡張する可能性を秘めています。しかし、その活用にあたっては、人間の感性や創造性を損なわないよう慎重に設計することが重要です。AIと人間の共創を重視した教育の実現を通じて、次世代の美術教育がさらなる飛躍を遂げることが期待されます。

一般社団法人日本美術教育学会 2024 年度（令和 6 年度）第 2 回理事会報告

日時：2024 年 8 月 16 日（金）12:00～13:45

場所：オンライン会議

出席者：細谷僚一、大橋功、新関伸也、清田哲男、松岡宏明、藤田雅也、鳥越亜矢、詫摩昭人、佐藤賢司、
青木宏子（敬称略、順不同）

- ・ 台風 7 号による新幹線の計画運休のため、対面での会議からオンライン会議へと変更された。欠席者はなく、会議が成立していることが報告された。
- ・ 細谷代表理事より開会の挨拶がなされた。
- ・ 議長は、細谷代表理事が務めることが確認された。
- ・ 議事録は、詫摩理事が担当することが確認された。

I 審議事項

第 1 号議案 「運営方針」確認および修正について

- ・ 新関理事より運営方針が示され、大会案内の一次案内は、紙面では配布せず、PDF 化し、ウェブページに掲載、メールにて配布し、二次案内のみ印刷物を作成し郵送することを、委員総会に提案することが了承された。また、外部業者アウトソーシング一元化を目指したいが、この規模の学会では予算的に難しく、出入金や名簿の管理は、少人数の部で分担し行う方が望ましいなどの意見交換を行なった。

第 2 号議案 次期理事(2025.4-2027.3)について

- ・ 定款により理事を年度内に確定する必要があり、年度内に臨時に会議を開催することが確認された。

第 3 号議案

- ・ 学会誌執筆に関する細則の改正について、令和 7 年度から 3 学会共通の細則に統一されることが紹介され、委員総会に提案する事が了承された。
- ・ 『美術教育』310 号の紙面リニューアルと投稿期日などの変更について、第 310 号は 2025 年 5 月 31 日が投稿締め切りで、9 月中旬が査読結果通知になることが紹介され、委員総会に提案する事が了承された。

一般社団法人日本美術教育学会 2024 年度（令和 6 年度）第 2 回委員総会報告

日時：2024 年 8 月 16 日（金）14:00～15:45

場所：オンライン会議

出席者：細谷僚一、大橋功、新関伸也、清田哲男、松岡宏明、藤田雅也、鳥越亜矢、詫摩昭人、佐藤賢司、
青木宏子、足立彰、大塚習平、佐藤絵里子、森田ゆかり、香月欣浩、水谷誠孝、馬淵哲、鈴木秀幸

欠席者：福井一尊、中川泰、吉川暢子（敬称略、順不同）

- ・ 委員総会の開催が成立することが報告された。

- ・ 細谷代表理事より開会の挨拶がなされた。
- ・ 議長は大橋功委員が務めることが確認された。

I 審議事項

第 1 号議案「運営方針」確認および修正について

- ・ 事務局（新関） ペーパーレス化を進め、大会案内の一次案内は、紙面では配布せず、PDF 化し、ウェブページに掲載、メールにて配布し、二次案内のみ印刷物を作成し郵送することが了承された。また、静岡大会終了後、新しいウェブページになることが紹介され、了承された。ウェブページ管理やその他、全面的なアウトソーシングは費用の点で難しく、学会委員にも運営に協力をお願いする。

第 2 号議案 次期理事(2025.4-2027.3)について

- ・ 代表理事より世代交代を推進し、人選について再検討のため、年度内に第 3 回の委員総会開催の提案がされ了承された。

第 3 号議案（藤田）

- ・ 学会誌執筆に関する細則の改正について、令和 7 年度から 3 学会共通の細則に統一されることが紹介され、了承された。図・表・写真の記載やキャプションの位置、註の記載の順番も変更されている。
- ・ 『美術教育』310 号の紙面リニューアルと投稿期日などの変更について 第 310 号は 2025 年 5 月 31 日が論文投稿締め切りで、9 月中旬が査読結果通知となること、紹介され了承された。また、学会誌リニューアル案が示され、了承された。

II 報告事項

事務局より（新関）

- ・ 支部報告をウェブページに載せるので、原稿依頼を行うのでご協力いただきたい。
- ・ 会計より（松岡）
- ・ 令和 5 年度の決算が紹介され了承された。会費の回収率 86%である事が報告された。
- ・ 令和 6 年度の予算が紹介され了承された。
- ・ 神林賞の積立口座の預金を、学会の口座へ移し一つにまとめた。

編集部より（藤田）

- ・ 会報 155 号を 7 月 31 日にウェブで公開した。学会誌 309 号は、9 月末に論文投稿締め切りであることが報告された。

研究部より（清田）

- ・ 連続セミナーを今年度も開催する事が報告された。

事業部（大橋）

- ・ 大会委員長の鈴木委員より静岡大会の準備状況の報告があった。台風 7 号の影響にもかかわらず、9 名の参加者でエクスカッションを静岡県立美術館で行った。本来返金しないが、台風による新幹線の計画運休の特殊な状況のため、エクスカッションと懇親会費については、不参加の人へ返金を行なった。
- ・ 香月会員より大阪大会の報告があり、開催日は 2025 年 8 月 22 日、23 日で、会場は四条畷学園、大会テーマは「美術教育という生き方～子どもと共につくる世界～」とすることが紹介された。

その他

- ・ 支部活動費が計上されているが、申し込みは、事務局宛 honbu@aesj.org に申し込むことで理事が共有し、可否を判断することとなった。支部活動を充実させるために積極的に使って欲しい。計画書は、細かいものでなく、大雑把に〇〇のような活動がしたい、というもので良い。

一般社団法人日本美術教育学会 2024 年度（令和 6 年度）第 3 回理事会報告

日時：2024 年 9 月 27 日（金）20:00～20:50

場所：オンライン会議

出席者：細谷僚一、大橋功、新関伸也、清田哲男、松岡宏明、藤田雅也、鳥越亜矢、詫摩昭人、佐藤賢司、青木宏子（敬称略、順不同）

- ・ 細谷代表理事より開会の挨拶がなされた。

I 審議事項

一般社団法人 日本美術教育学会 第 5 期 理事・監事

- ・ 任期が 2025 年 4 月～2027 年 3 月の新しい理事・監事の原案が提案され、了承され、次回委員総会に諮る運びとなった。また、10 月 13 日（日）20 時から委員総会を開催することが提案され、了承された。

II 報告事項

その他

- ・ 学会誌の校正についての意見交換がなされた。

一般社団法人日本美術教育学会 2024 年度（令和 6 年度）第 3 回委員総会報告

日時：2024 年 10 月 13 日（日）20:00～20:50

場所：オンライン会議

出席者：細谷僚一、清田哲男、松岡宏明、鳥越亜矢、詫摩昭人、青木宏子、福井一尊、大塚習平、森田ゆかり、中川泰、水谷誠孝、馬淵哲（敬称略、順不同）

欠席者：大橋功、新関伸也、藤田雅也、佐藤賢司、足立彰、佐藤絵里子、鈴木秀幸、吉川暢子（敬称略、順不同）

- ・ 委員総会の開催が成立することが報告された。
- ・ 細谷代表理事より開会の挨拶がなされた。
- ・ 議長は清田理事が務めることが確認された。

I 審議事項

1. 一般社団法人日本美術教育学会 第 9 期～第 10 期 理事・監事（任期：2025 年 4 月～2027 年 3 月）の承認について

- ・ 理事会で確認された原案をもとに、任期が 2025 年 4 月～2027 年 3 月の新しい理事・監事について審議され、了承された。

2. 一般社団法人日本美術教育学会 2024 年度委員の役割分担の確認について

- ・ 任期が 2025 年 4 月～2027 年 3 月の新しい理事・監事の役割分担について審議され、了承された。細谷代表理事から引き継ぎを行いながら、世代交代をして欲しい旨の説明がなされた。

II 報告事項

その他

- ・ 美術教育オンライン連続セミナーについて清田理事より報告があった。セミナーの名前がつく以上、質の担保についての意見が出された。また、土曜日の午後の時間以外の可能性はないか、別時間で試して反応を確認してはどうかなどの意見が出され、意見交換がなされた。
- ・ それぞれの委員より情報交換がなされた。
- ・ 松岡理事、細谷代表理事より全日本美術教育会議準備大会の報告がなされた。

一般社団法人日本美術教育学会 理事・監事・委員

第9期～第10期 法人役員 任期: 2025年4月～2027年3月 ※新任

代表 理事	細谷 僚一	京都デザイン&テクノロジー専門学校	学会統括
業務執行 理事(事務局長)	新関 伸也	東海大学	総務全般
業務執行 理事(会計部長)	佐藤 賢司※	大阪教育大学	会計・収支管理
業務執行 理事(編集部長)	藤田 雅也	静岡県立大学短期大学部	学会誌編集
業務執行 理事(研究部長)	清田 哲男	岡山大学	研究事業企画
業務執行 理事(事業部長)	大橋 功	和歌山信愛大学	大会支援・支部統括
理 事	詫摩 昭人	和光大学	総務補佐
理 事	水谷 誠孝※	名古屋学芸大学	会報・広報
理 事	青木 宏子※	創作玩具工房サニープレイス	会計
理 事	吉川 暢子※	香川大学	研究事業補佐
監 事	佐藤 絵里子※	弘前大学	職務執行・会計監査
監 事	福井 一尊※	島根県立大学	職務執行・会計監査

委員 任期: 2024年4月～2027年3月

北海道・東北ブロック 委員	佐藤 絵里子	弘前大学
関東ブロック 委員	新関 伸也	東海大学
	詫摩 昭人	和光大学
中部ブロック 委員	藤田 雅也	静岡県立大学短期大学部
	森田 ゆかり	金城大学短期大学部
近畿ブロック 委員	松岡 宏明	立命館大学
	大橋 功	和歌山信愛大学
	佐藤 賢司	大阪教育大学
中国・四国ブロック 委員	吉川 暢子	香川大学
九州・沖縄ブロック 委員	中川 泰	長崎大学
関東支部代表 委員	大塚 習平	東京都市大学
静岡支部代表 委員	鈴木 秀幸	静岡大学教育学部附属浜松小学校
愛知支部代表 委員	水谷 誠孝	名古屋学芸大学
滋賀支部代表 委員	馬淵 哲	滋賀大学
京都支部代表 委員	足立 彰	京都教育大学附属小中学校
兵庫支部代表 委員	清田 哲男	岡山大学
岡山支部代表 委員	鳥越 亜矢	中国短期大学
鳥取・島根支部代表 委員	福井 一尊	島根県立大学